

科目区分：生活環境コース、学校教育実践コース、情報教育コース（受講者数 25 名）

授業科目：生活科学概論

暮らしと高齢者

家政教育講座・野中 美津枝

I. 本授業の目的と概要

本授業は、生活環境コース 1 回生の必修科目であり、これから 4 年間大学で生活科学の各論を学ぶ導入となっている。また、学校教育教員養成課程、総合人間形成課程の選択でもあり、現代の生活科学の概要を認識し、生活者としての社会発展について、環境との共生、人との共生を前提とした価値観を習得することを目的とした。

H21 年告示の新高等学校学習指導要領において、理科では「科学と人間生活」が新設され、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させることをねらいとしている。家庭科の「家庭総合」では、内容項目に「生活の科学と環境」をあげ、生活を科学的に理解させ、持続可能な社会を目指して主体的に生活することをねらいとしている。これからの時代は、科学技術の発展だけでなく、生活者の視点で心の豊かさをもたらす持続可能な社会を形成していかなければならない。生活科学教育が教えなければならない課題は、人々のこれからの生活に欠かせない知識や技術の前提となる価値観である。

そのため、本授業では知識偏重ではなく、生活者としての価値観を養うため、様々な参加型アクション志向学習を取り入れ、現代の生活問題について主体的に考える授業構成にした。テキストとして、「私たちの生活科学」（理工学者）を購入し、毎時間一章ごと進め、14 回の授業で全章が終了し、生活科学全般を広く理解できるように設計した。

〈授業スケジュール〉

- ①ガイダンス、第 1 章 生活科学とは
- ②第 2 章 暮らしと科学
- ③第 3 章 人間発達と社会生活
- ④第 4 章 家族と家庭生活
- ⑤第 5 章 暮らしと技術
- ⑥第 6 章 暮らしと環境
- ⑦第 7 章 暮らしの様式
- ⑧第 8 章 暮らしと消費
- ⑨第 9 章 暮らしと法律

- ⑩第 10 章 暮らしと健康
- ⑪第 11 章 暮らしと住まい
- ⑫第 12 章 暮らしと福祉
- ⑬第 13 章 暮らしと高齢者（公開授業）
- ⑭第 14 章 暮らしと文化、まとめ
- ⑮試験

II. 公開授業の概要

第 13 章「暮らしと高齢者」

キーワード：長寿の理由、扶養負担、介護

アクション志向学習：バズ・セッション（2 回）、
ディベート

授業前の課題：前時にディベートのテーマ発表と肯定派、否定派を決めておき、資料収集と立論を考えてくることを宿題

【授業の流れ】

1. 長寿の理由（25 分）

- ・日本の長寿の実態（解説）

↓

- ・バズ・セッション（6 グループ）

長寿の理由（戦後 50 年で 20 歳延びた原因）
を考える。

↓

- ・各グループ黒板に理由を板書

↓

- ・長寿は生活科学の賜物であること（解説）

2. 高齢社会の扶養負担（25 分）

- ・人口の年齢構成の推移と生産年齢人口にかかる扶養負担の増大（解説）

↓

- ・バズ・セッション（6 グループ）

将来的に扶養負担を軽くする方法を考える。

↓

- ・各グループ指名発表

- ・可能な扶養負担の軽減方法（解説）

3. 介護についてディベート（全 40 分）

テーマ：「介護は家族がすべきである」

肯定派（3,4,6 班） 否定派（1,2,5 班）

- ・机を各グループでくっつける
- ・ディベートの確認と作戦タイム（13分）

【ディベートの流れ】

- 肯定側：立論（4分）
- 否定側：立論（4分）
- 検討時間（3分）
- 否定側：肯定側に対する反論（2分）
- 肯定側：否定側に対する反論（2分）
- 検討時間（3分）
- 肯定側：反駁（3分）
- 否定側：反駁（3分）
- ジャッジ（3分）

Ⅲ. 公開授業の感想

- ・授業のテンポがよく、要領よく授業が展開されていて参考になった。
- ・的確な問いかけで、授業の焦点が明確でわかりやすい。
- ・学生への指名が多く、ディベートでは全員が発表し、全員が授業によく参加していた。
- ・ディベートのルールが学生によく浸透していて、論理的に皆答えられていた。
- ・時間を決めてディベートするので、途中で止まることなくスムーズに流れ、ディベートの参考となった。
- ・授業プリントとワークプリントを分けているので、毎回提出物があるのがよい。
- ・個人でできる深まりと集団でできる深まりを上手く使い分けている。
- ・介護について、ディベートでは、やや抽象的となり、どの程度自分のこととして捉えられているかは疑問が残る。
- ・テキストを1冊、毎時間一章ごとに進めるのは、広い内容を絞り込んでできるのでよい。

Ⅳ. カンファレンスでの討論

公開授業後の討論では、他のアクション志向学習としてどういうことをしているのか、ディベートのやり方について質問が出た。毎回、授業内容に応じて、KJ法でのワークショップ、ラベルトーク、イメージマップ等取り入れて授業展開をしていることを説明した。ディベートは、今回2回目で、前回は「暮らしと環境」で、環境問題について3つのテーマで実施した。

ディベートについては、これまでに経験した者

は1名で、前回の時にやり方について時間をかけて説明している。ディベート用ワークシートにメモを取りながら「考える力」「聞く力」「表現する力」を的確に身に付けるように促している。

前回の環境問題のディベートは、グループ対抗で3つのテーマで実施したが、今回は、「家族が介護すべきである」の1つだけのテーマを全グループが参加するという変則的ディベートであったため、授業前は成功するか不安であった。本来であれば、2グループが代表で肯定側、否定側に分かれてディベートをして他はジャッジに回るべきであるが、折角前時で資料集めと立論を宿題に出しているの、1グループが1つの立論を立てて、全グループがディベートに参加するようにした。そのため、立論、反論、反駁では、各班から2名ずつ代表で前に出てくること、毎回違うメンバーが出て全員が前で発表するようにした。2回目のディベートということもあり、資料も事前に収集し、論理的思考力、コミュニケーション能力を發揮し、スムーズにディベートが実施できていた。

Ⅴ. ディベートに対する学生の評価

全授業終了時に、「生活科学概論」の授業アンケートを自由記述で書かせたところ、25名中17名がディベートについての学びをあげていた。ここに一部を記載する。

- ・2回行ったディベートでは、問題解決への具体策と上手に相手に意思を伝えるディベート力の両方を学びとることができ一石二鳥だった。
- ・どうすれば相手を納得させられるかを考え、そのために資料集めをし、その中でまた新たに知ることができたものも多くありました。
- ・限られた時間の中で自分の伝えたいことを簡潔にかつしっかりと伝えること、相手の反論、質疑に正確に返すこと、最後まで自分の意見を貫き通すことの大切さ、大変さを学びました。
- ・違う意見を持つ相手に自分たちの主張を分かってもらうためには、討論する事柄や主張内容を理解しておく必要がある。今後このような場面に備え、気になることを探したり、予備知識を深める努力をしようと思った。
- ・自分の意見をより説得力のあるものにするにはどうしたら良いか考えるきっかけになりました。また、反対意見を聞き理解しようとする力も付いた気がします。